

50223

教科書文庫

5
820
46-1947
20003 01646

Kodak Gray Scale

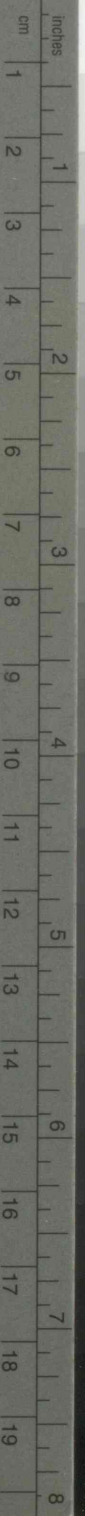
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



© Kodak, 2007 TM: Kodak

教科書文庫
5
820
46-1947
2000301646

教科書

漢文

二

中等學校教科書株式會社



資料室

375.9
Chu20

教科書文庫
5
820
46-1947
2000301646

文部省檢定済
昭和22年12月15日 高等学校用

漢文

中等學校教科書株式會社



二

広島大学図書
2000301646


漢文 二 目次

上篇	序說	一
師說	唐韓愈	七
左遷至藍關示姪孫湘	唐韓愈	九
絕句	唐杜甫	一〇
論東漢教化	宋司馬光	一三
水魚之交	晉司馬光	一六
五柳先生傳	晉陶潛	一七
責子	晉陶潛	一八
歸去來兮辭	晉陶潛	二〇
歸園田居	晉陶潛	二二
范魯公曉從子(小學)	宋程頤	二三
明道先生墓表	宋程頤	二五
始得西山宴遊記	唐柳宗元	二七
鈞錡潭記	唐柳宗元	二九



鉅鉞潭西小丘記	柳宗元	元
漁翁	柳宗元	元
耶馬溪圖卷記	賴襄	三
泊天草洋	賴襄	三
雜說	韓愈	元
送溫處士赴河陽軍序	韓愈	元
送元二使安西	唐岑維	元
胡笳歌送顏真卿使赴河隴	唐岑參	元
岳陽樓記	宋范仲淹	四
登岳陽樓	杜甫	四
黃鶴樓	唐崔顥	四
登金陵鳳凰臺	唐李白	四
獨樂園記	司馬光	四
喜雨亭記	宋蘇軾	四
方山子傳	蘇軾	四
與微之書	唐白居易	五
贈元稹	白居易	五

金鑿子睥日	白居易	五
議婚	白居易	五
桃夭(詩經)	唐王建	五
新嫁娘	唐王建	五
戒耳餐	清袁枚	五
祭十二郎文	韓愈	六
薤露歌	無名氏	六
蒿里曲	無名氏	六
送東陽馬生序	明宋濂	六
送友人	李太白	六
送別	王維	六
送石昌言爲北使引	宋蘇洵	七
懷古五絕	李太白	七
蘇臺覽古	李太白	七
越中懷古	李太白	七
烏衣巷	唐劉禹錫	七
行宮	唐元稹	七

臺城	蜀章	莊
下篇		
孟子鈔	七四	
中庸鈔	九一	
附篇	九五	

序 説



卷一にならつて、本文を読む前に一読してもらいたいためにつゞいた。上篇では、やゝ程度の高い作品を、ほど序列して編んだ。下篇の古典は、孟子と中庸とから選択した。

本巻の注は、卷一に比して少し簡單にした。紙の都合上、これもやむをえない。古典鈔の注を略した理由は卷一と同様である。

○師説 師道についての古人の議論を古文の名家韓文公の作によつて見る。己と年齢の上の先後の差を論外にして、師は尊ぶべきことを説いた文。

○示姪孫湘 前課と同じ作家の詩を示す。韓は「論佛骨表」を作つて佛教に反対したため、潮州刺史に貶せられた。

○絶句 春のころにふさわしく、春の末を歌つた詩を採る。

○論東漢教化 周以後、風俗教化のすぐれたのは

東漢に及ぶものはない。故に、漢末の英雄も名義を恐れて、弱体の漢室を降することはなかくしなかつた事実を挙げて、教化の大切なことを書いた名文。

○水魚之交 水魚の交という故事の出所を示す。

○五柳先生傳 後漢から三國へと時代を追うた後を受けて晉末の文人の自傳を録してみる。消極的な知識人の生活ぶりがあらわれているが、かゝる生活は現在社会人のなすべきことか否かを論じあうのもよい。

○責子 舒儼・宣侯・雍份・端佚・通佟の五兒が共に学問を好まぬ不肖な子であつたことを詩によつて描く。

○歸去來辭 作者はわが國でも早くから親しまれていた文人である。この一篇を読むと、わすかの俸給のために上官に屈するよりは、田園生活の樂しさに返りたいといっているのが感じられる。しかし、陶淵明集には、本篇に自序があつて、生活

苦のために役人になったが、役人生活は自分の性情に不適當であると知ったから、妹の喪を機会に退官したとある。自然を無上の友と考える文人の氣持はうかがえるが、陶の去就の態度は、今日の社会面から一論に値するであろう。

○歸園田居 前課の末の自然を相手の生活の楽しさを、同一作家の韻文で味わう。

○范魯公曉從子 詩の形式によって年若きものが、榮達を急ぐのを戒めた文学的作品。

○明道先生墓表 墓表は墓碑である。死者の功德を表揚するものであるからいう。宋の大儒の墓表によって、宋字の傳統を明らかにする。

○始得西山宴遊記 卷一に挙げた永州八記の第一篇。以下第二・三篇で、作者の得意とする山水の遊記を見る。

○鉅鍾潭記 この勝景があるために、流寓の身ながら故郷を忘れると述べている。

○鉅鍾潭西小丘記 この小丘を價安く手に入れた

ことを喜び、小丘が人を得たのに比し、小丘を得た自分が不遇なことを寓した文。

○漁翁 一幅の画を見るような詩。詩と画と密接な関係にあることはこれでもわかるであろう。

○耶馬溪圖卷記 江戸の文豪たる山陽の明文。耶馬溪はこの文によって天下に有名となったといわれる。柳宗元の山水遊記について、本邦の代表作として挙げる。

○泊天草洋 同人の有名な詩の一例。

○雜說 わが山陽は、唐の韓文公に比すべきであろう。そこで、山陽について、韓文を採る。人を見抜くことを馬を見ることに喩えた名文。文中、「不常有」の一句は「常不有」とどう違うか。

○送溫處士赴河陽軍序 序には送序といって、親戚友人が他地に赴く時、送別の意味で贈る文がある。古今の文人中、送序は韓が最も巧みであったともいわれる。その代表作の一であり、また伯樂と名馬とにたとえているこの文を採った。

○送元二使安西 古來有名な送別の詩で、「陽關三

疊」と呼ばれるものである。その歌い方について諸説があるが、起句のみくりかえさないという説がわかりもよい。わが國では、結句のみを「無からん、無からん、故人無からん、西の方、陽關を出づれば、故人無からん」と吟じ來たっている。

○胡笳歌送顔真卿使赴河隴 胡笳の哀調をかりて離別の情をうつした古詩。

○岳陽樓記 岳陽樓の勝を述べて、議論で結んでいる。敘景の美文は、このように古文でも作れるものである。政治家に、天下の樂に後れて樂しむ覺悟があれば、天下はよく治まる。將來の指導者たるべき諸君に待つところである。

○登岳陽樓 前課に出した岳陽樓を歌った詩中の代表的なもの。社会に関心を持った杜甫だけに、この勝景に接しても、戰爭の民衆へ與える痛苦を含めている。

○黃鶴樓 同じく樓を詠んだ名詩を挙げる。崔さい

名は、この詩によって傳わったといつてよからう。

この樓については、卷一に挙げたごとく、傳説が多い。首句の「黃鶴」を「白雲」に作つた本もある。今日武・漢を訪れる人は、樓址の小樓に登つて、この詩を味わう。

○登金陵鳳凰臺 李白は黃鶴樓に登つて、崔の詩のあるのを知り、去つて、金陵のこの台において同じ趣のこの詩を作つたと傳えられる。

○獨樂園記 司馬溫公の閑日月を樂しんだ一面を知りうるものとして、この文を採つた。獨樂の意は利己主義に出るものではない。俗書には、前後の節が省かれている。

○喜雨亭記 東坡とうはの記事文で、かれは官邸の一角に喜雨と名づけた理由を説いている。

○方山子傳 隱者の傳を載せる。隱遁いんとんの眞意がどこにあるかを疑う。

○輿微之書 白樂天と元微之との友情は、世にまねなくらい厚かつた。それに関する詩は多いが、

今有名な手紙を示す。

○贈元稹 次に同じ心をあらわした詩を録する。

○金罍子晬日 晬日という語はむずかしいが、晬という文字は満一年、ことに子が生まれて満一年をいうのである。樂天は、元和四年、三十八歳でこの女を得たが、二歳でなくなつた。この詩は中年で子を得た親の愛情に満ちている。

○議婚 秦中吟十首は、五言古詩中自ら重んじたものゝ一で、当時の社会の悪風を諷諭したものである。元和五年ころの作といわれる。わが國にも流行した。

○桃夭 詩經の中で、比較的平易な一篇として採つた。詩經は周の中ごろ以後の作を中心に編んだ韻文集で、上代の詩歌を代表する。周南は周公旦の領地内の民の作を録した部分で、この一篇は、結婚適齡期の娘を桃にたとえて歌つたもの。一篇三章、各章はくりかえしの形式を採っている。

○新嫁娘 新婦のやさしい心づかいが、平易な作っている。

○送石昌言爲北使引 遼に使用する石氏に対して、その使命を全うする任務を述べている。

○懷古五絶 古址に立って、当時の華やかさを想像した五首の絶句を選んでみた。柴枯盛衰、懷古の情にたえぬ。李白の二篇は次の劉・元の作とともに邦人によく知られている。末の一篇は最後に少し趣を変えて、五代の作品を採つた。

下 篇

○孟子鈔 孟子は孔子の後に出了た儒家で、そのころは儒家以外の諸字派の勢力が大きかったので、かれは自己の学説を力説した。そのため、孟子の文章は議論が整然としている。論文体の古文の典型であり、宋の蘇洵のごとき、大いに手本とした。書物は、孟子の門流の手で編まれたものらしい。論語に比して孟子の文は各章とも概して長く、文学的にはすぐれている。

○中庸鈔 大学・中庸はもと礼記中の各一篇であ

品中に盛られていると思う。

○戒耳餐 古文の形式をや、脱した、軽妙な作品である。内容も趣が違ふ。宴会にごちそうすくめはとるべきでないといふ戒めた作。隨園食單と呼ぶ本から採つた。

○祭十二郎文 また古文の例。これは哀悼の文である。祭文の一例。短命の不測を敘し、死者に対して、その遺児の養育を誓っている。

○薤露歌 人の生命のはかなきを、おゝにらの葉の上の露にたとえている。漢のころの作品で、いわゆる輓歌とて、葬送の曲である。

○蒿里曲 やはり葬送の曲で、蒿里は山の名である。

○送東陽馬生序 明代の擬古文の中で、彼我に知られた名文。自己の苦学の經驗談によって、馬生を訓戒している。

○送友人 遠行の友人を送る一篇。

○送別 不遇の友人を送って、閑居の楽しさを歌つたが、宋儒は論孟とあわせて四書と呼び、儒学の入門書とした。儒教徒の編であろう。大学の文章はや、易しいから、卷一に收めたが、中庸の内容は哲学的で、四書の中では最も難しからう。解し易い部分を收めた。

上篇

師說

韓

愈

古之學者必有師。師者所以傳道授業解惑也。人非生而知之者。孰能無惑。惑而不從師。其為惑也終不解矣。生乎吾前。其聞道也固先乎吾。吾從而師之。生乎吾後。其聞道也亦先乎吾。吾從而師之。吾師道也。夫庸知其年之先後生於吾乎。是故無貴無賤。無長無少。道之所存。師之所存也。嗟乎。師道之不傳也久矣。欲人之無惑也難矣。古之聖人。其出人也遠矣。猶且從師而問焉。今

之衆人其下聖人也亦遠矣而恥學於師是故聖益聖愚益愚聖人之所以爲聖愚人之所以爲愚其皆出於此乎愛其子擇師而教之於其身也則恥師焉惑矣彼童子之師授之書而習其句讀者也非吾所謂傳其道解其惑者也句讀之不知惑之不解或師焉或不焉小學而大遺吾未見其明也巫醫樂師百工之人不恥相師士大夫之族曰師曰弟子云者則群聚而笑之問之則曰彼與彼年相若也道相似也位卑則足羞官盛則近諛嗚呼師道之不復可知矣巫醫樂師百工之人君子不齒今其智乃反不能及其可怪也歟聖人無常師

孔子師郯子萇弘師襄老聃郯子之徒其賢不及孔子孔子曰三人行必有我師焉是故弟子不必不如師師不必賢於弟子聞道有先後術業有專攻如是而已李氏子蟠年十七好古文六藝經傳皆通習之不拘於時請學於余余嘉其能行古道作師說以貽之

左遷至藍關示姪孫湘

韓

愈

一封朝奏九重天

夕貶潮州路八千

欲爲聖明除弊事

豈將衰朽惜殘年

雲橫秦嶺家何在

雪擁藍關馬不前

知汝遠來應有意

好收吾骨瘴江邊

絕句

杜甫

江碧鳥愈白

山青花欲燃

今春看又過

何日是歸年

論東漢教化

司馬光

臣光曰、教化國家之急務也。而俗吏慢之。風俗天下之
大事也。而庸君忽之。夫惟明智君子、深識長慮、然後知
其爲益之大、而收功之遠也。光武遭漢中衰、群雄糜沸、

奮起布衣、紹恢前緒、征伐四方、日不暇給、乃能敦尚經
術、賓延儒雅、開廣學校、修明禮樂、武功既成、文德亦洽。
繼以孝明、孝章、遙追先志、臨雍拜老、橫經問道、自公卿
大夫、至于郡縣之吏、咸選用經明行修之人。虎賁衛士、
皆習孝經、匈奴子弟、亦學太學。是以教立於上、俗成於
下。其忠厚清修之士、豈惟取重於搢紳、亦見慕於衆
庶。愚鄙汗穢之人、豈惟不容於朝廷、亦見棄於鄉里。
自三代既亡、風化之美、未有若東漢之盛者也。及孝和
以降、貴戚擅權、嬖倖用事、賞罰無章、賄賂公行、賢愚渾
殺、是非顛倒、可謂亂矣。然猶緜緜不至於亡者、上則有

公卿大夫袁安楊震李固杜喬陳蕃李膺之徒面引廷
爭用公義以扶其危下則有布衣之士符融郭泰范滂
許邵之流立私論以救其敗是以政治雖濁而風俗不
衰至有觸罟斧鉞僵仆於前而忠義奮發繼起於後隨
踵就戮視死如歸夫豈特數子之賢哉亦光武明章之
遺化也當是之時苟有明君作而振之則漢氏之祚猶
未可量也不幸承陵夷頽敝之餘重以桓靈之昏虐保
養姦回過於骨肉殄滅忠良甚於寇讎積多士之憤蓄
四海之怒於是進召戎董卓乘釁袁紹之徒從而構
難遂使乘輿播越宗廟丘墟王室蕩覆烝民塗炭大命

隕絕不可復救然州郡擁兵專地者雖互相吞噬猶未
嘗不以尊漢爲辭以魏武之暴戾疆仇加有大功於天
下其蓄無君之心久矣乃至沒身不敢廢漢而自立豈
其志之不欲哉猶畏名義而自抑也由是觀之教化安
可慢風俗安可忽哉（資治通鑑卷六十八）

水魚之交

司馬光

〔建安十二年〕初琅琊諸葛亮寓居襄陽隆中每自比管
仲樂毅時人莫之許也惟潁川徐庶與崔州平謂爲信
然州平烈之子也劉備在荊州訪士於襄陽司馬徽徽

曰、儒生俗士、豈識時務。識時務者、在乎俊傑。此間自有伏龍鳳雛。備問爲誰。曰、諸葛孔明。龐士元也。徐庶見備於新野。備器之。庶謂備曰、諸葛孔明臥龍也。將軍豈願見之乎。備曰、君與俱來。庶曰、此人可就見、不可屈致也。將軍宜枉駕顧之。備由是詣亮。凡三往、乃見。因屏人曰、漢室傾頽、姦臣竊命。孤不度德量力、欲信大義于天下、而智術淺短、遂用猖蹶、至于今日。然志猶未已。君謂計將安出。亮曰、今曹操已擁百萬之衆、挾天子而令諸侯。此誠不可與爭鋒。孫權據有江東、已歷三世、國險而民附、賢能爲之用。此可與爲援、而不可圖也。荊州北據漢

河、利盡南海、東連吳會、西通巴蜀。此用武之國、而其主不能守。此殆天所以資將軍也。益州險塞、沃野千里、天府之土。劉璋闇弱、張魯在北。民殷國富、而不知存恤。智能之士、思得明君。將軍既帝室之胄、信義著於四海、若跨有荊益、保其巖阻、撫和戎越、結好孫權、內修政治、外觀時變、則霸業可成。漢室可興矣。備曰、善。於是與亮情好日密。關羽、張飛不悅。備解之曰、孤之有孔明、猶魚之有水也。願諸君勿復言。羽、飛乃止。司馬徽清雅、有知人之鑑。同縣龐德、公素有重名。徽兄事之。諸葛亮每至德公家、獨拜牀下。德公初不令止。德公從子統、少時樸鈍

未有識者。惟德公與徽重之。德公常謂孔明爲臥龍士
元爲鳳雛。德操爲水鑑。故德操與劉備語而稱之。(資治

通鑑卷六十五)

五柳先生傳

陶潛

先生不知何許人也。亦不詳其姓字。宅邊有五柳樹。因以爲號焉。閑靖少言。不慕榮利。好讀書。不求甚解。每有會意。便欣然忘食。性嗜酒。家貧不能常得。親舊知其如此。或置酒而招之。造飲輒盡。期在必醉。既醉而退。曾不吝情。去留環堵蕭然。不蔽風日。短褐穿結。簞瓢屢空。晏

如也。常著文章自娛。頗示己志。忘懷得失。以此自終。贊曰。黔婁有言。不戚戚於貧賤。不汲汲於富貴。極其言。茲若人之儔乎。酣觴賦詩。以樂其志。無懷氏之民歟。葛天氏之民歟。

賁子

陶潛

白髮被兩鬢。肌膚不復實。雖有五男兒。總不好紙筆。阿舒已二八。懶惰故無匹。阿宣行志學。而不愛文術。雍端年十三。不識六與七。通子垂九齡。但覓梨與栗。

天運苟如此，且進杯中物。

歸去來兮辭

陶潛

歸去來兮，田園將蕪，胡不歸。既自以心爲形役，奚惆悵而獨悲。悟已往之不諫，知來者之可追。實迷途其未遠，覺今是而昨非。舟搖搖以輕颺，風飄飄而吹衣。問征夫以前路，恨晨光之熹微。乃瞻衡宇，載欣載奔。僮僕歡迎，稚子候門。三徑就荒，松菊猶存。携幼入室，有酒盈樽。引壺觴以自酌，眄庭柯以怡顏。倚南窗以寄傲，審容膝之易安。園日涉以成趣，門雖設而常關。策扶老以流憩，時

矯首而遐觀，雲無心以出岫。鳥倦飛而知還，景翳翳以將入。撫孤松而盤桓，歸去來兮，請息交以絕遊。世與我而相遺，復駕言兮，焉求悅親戚之情話，樂琴書以消憂。農人告予以春及，將有事於西疇。或命巾車，或棹孤舟。既窈窕以尋壑，亦崎嶇而經丘。木欣欣以向榮，泉涓涓而始流。善萬物之得時，感吾生之行休。已矣乎，寓形宇內，能復幾時。曷不委心任去留，胡爲乎遑遑兮，欲何之。富貴非吾願，帝鄉不可期。懷良辰以孤往，或植杖耘耔。登東臯以舒嘯，臨清流而賦詩。聊乘化以歸盡，樂夫天命復奚疑。

歸園田居

陶潛

少無適俗韻 性本愛丘山 誤落塵網中
 一去三十年 羈鳥戀舊林 池魚思故淵
 開荒南野際 守拙歸園田 方宅十餘畝
 草屋八九間 榆柳蔭後園 桃李羅堂前
 曖曖遠人村 依依墟里煙 狗吠深巷中
 鷄鳴桑樹巔 戶庭無塵雜 虛室有餘閑
 久在樊籠裏 復得返自然

范魯公曉從子

范魯公質為宰相從子杲嘗求奏遷秩質作詩曉之其
 略曰

戒爾學立身	莫若先孝弟	怡怡奉親長
不敢生驕易	戰戰復兢兢	造次必於是
戒爾學干祿	莫若勤道藝	嘗聞諸格言
學而優則仕	不患人不知	惟患學不至
戒爾遠恥辱	恭則近乎禮	自卑而尊人
先彼而後己	相鼠與茅鴟	宜鑑詩人刺
戒爾勿放曠	放曠非端士	周孔垂名教

齊梁尚清議，南朝稱八達，千載穢青史，
戒爾勿嗜酒，狂藥非佳味，能移謹厚性，
化爲凶險類，古今傾敗者，歷歷皆可記，
戒爾勿多言，多言衆所忌，苟不慎樞機，
災厄從此始，是非毀譽間，適足爲身累，
舉世重交游，擬結金蘭契，忿怨容易生，
風波當時起，所以君子心，汪汪淡如水，
舉世好承奉，昂昂增意氣，不知承奉者，
以爾爲玩戲，所以古人疾，蓬篚與戚施，
舉世重游俠，俗呼爲氣義，爲人赴急難

往往陷囚繫，所以馬援書，殷勤戒諸子，
舉世賤清素，奉身好華侈，肥馬衣輕裘，
揚揚過閭里，雖得市童憐，還爲識者鄙，
我本羈旅臣，遭逢堯舜理，位重才不充，
戚戚懷憂畏，深淵與薄冰，蹈之唯恐墜，
爾曹當憫我，勿使增罪戾，閉門斂蹤跡，
縮首避名勢，勢位難久居，畢竟何足恃，
物盛則必衰，有隆還有替，速成不堅牢，
亟走多顛躓，灼灼園中花，早發還先萎，
遲遲澗畔松，鬱鬱含晚翠，賦命有疾徐

青雲難力致 寄語謝諸郎 躁進徒爲耳

(小學嘉言)

明道先生墓表

程頤

先生名顥字伯淳葬於伊川潞國太師題其墓曰明道先生弟頤序其所以而刻之石曰周公沒聖人之道不行孟軻死聖人之學不傳道不行百世無善治學不傳千載無真儒無善治士猶得以明乎善治之道以淑諸人以傳諸後無真儒天下貿貿焉莫知所之人欲肆而天理滅矣先生生于千四百年之後得不傳之學於遺

經志將以斯道覺斯民天不憖遺哲人早世鄉人士大夫相與議曰道之不明也久矣先生出倡聖學以示人辨異端闢邪說開歷古之沈迷聖人之道得先生而復明爲功大矣於是帝師採衆議而爲之稱以表其墓學者之於道知所嚮然後見斯人之爲功知所至然後見斯名之稱情山可夷谷可堙明道之名互萬世而長存勒石墓旁以詔後人

始得西山宴遊記

柳宗元

自余爲僇人居是州恆惴慄其隙也則施施而行漫漫

而游。日與其徒上高山，入深林，窮迴溪，幽泉怪石，無遠不到。到則披草而坐，傾壺而醉。醉則更相枕以臥，臥而夢。意有所極，夢亦同趣。覺而起，起而歸。以爲凡是州之山水，有異態者，皆我有也。而未始知西山之怪特。今年九月二十八日，因坐法華西亭，望西山，始指異之。遂命僕過湘江，緣染溪，斫榛莽，焚茅茷，窮山之高而止。攀援而登，箕踞而遨，則凡數州之土壤，皆在衽席之下。其高下之勢，呀然洼然，若垤若穴，尺寸千里，攢蹙累積，莫得遞隱。縈青繚白，外與天際，四望如一。然後知是山之特出，不與培塿爲類。悠悠乎與灑氣俱，而莫得其涯；洋洋

乎與造物者游，而不知其所窮。引觴滿酌，頽然就醉，不知日之入。蒼然暮色，自遠而至，至無所見，而猶不欲歸。心凝形釋，與萬化冥合。然後知吾嚮之未始游，游於是乎始。故爲之文，以志是歲元和四年也。

鈞鉞潭記

柳宗元

鈞鉞潭在西山西。其始蓋冉水自南奔注，抵山石，屈折東流。其顛委勢峻，盪擊益暴，齧其涯，故旁廣而中深。畢至石乃止。流沫成輪，然後徐行。其清而平者，且十畝。有樹環焉，有泉懸焉。其上有居者，以予之亟游也。一旦款

門來告曰、不勝官租私券之委積、既芟山而更居、願以潭上田質財、以緩禍。予樂而如其言、則崇其臺、延其檻、行其泉於高者、墜之潭、有聲淅然。尤與中秋觀月爲宜。於以見天之高、氣之迴、孰使予樂居夷而忘故土者、非茲潭也歟。

鈞鐻潭西小丘記

柳宗元

得西山後八日、尋山口西北道二百步、又得鈞鐻潭西二十五步、當湍而浚者、爲魚梁。梁之上有丘焉、生竹樹。其石之突怒偃蹇、負土而出、爭爲奇狀者、殆不可數。其

嶽然相累而下者、若牛馬之飲于溪、其衝然角列而上者、若熊羆之登于山。丘之小不能一畝、可以籠而有之。問其主、曰唐氏之棄地、貨而不售。問其價、曰止四百。余憐而售之。李深源、元克己、時同遊、皆大喜、出自意外。卽更取器用、剷刈穢草、伐去惡木、烈火而焚之。嘉木立、美竹露、奇石顯。由其中以望、則山之高、雲之浮、溪之流、鳥獸魚龜之遨遊、舉熙熙然、迴巧獻伎、以效茲丘之下。枕席而臥、則清冷之狀與目謀、潏潏之聲與耳謀。悠然而虛者、與神謀。淵然而靜者、與心謀。不匝旬而得異地者、二。雖古好事之士、或未能至焉。噫、以茲丘之勝、致之禮

鎬郭杜則貴游之士爭買者日增千金而愈不可得今
棄是州也農夫漁父過而陋之賈四百連歲不能售而
我與深源克己獨喜得之是其果有遭乎書於石所以
賀茲丘之遭也

漁翁

柳宗元

漁翁夜傍西巖宿
煙銷日出不見人
廻看天際下中流
曉汲清湘燃楚竹
欸乃一聲山水綠
巖上無心雲相逐

耶馬溪圖卷記

賴襄

余嘗讀昔人畫疑其山貌太奇峭恐非天壤間所有畫
人一時興到鼓舞其筆墨耳及覩豐耶馬溪乃知造物
奇怪畫手亦有寫不到者也歲戊寅遊鎮西過海南望
彥山於雲際已覺其有異矣既經二肥薩隅還寓豐後
隈邑臘月五日入豐前遇一水北來蓋發源彥山者沿
焉而東數十里昏黑覺左右峯巒皆非凡山溪相迫處
鑿山腹爲道又穿牖取明余買炬以入遇牖窺見月在
溪水朗然宿民家翌大霧待霽乃發復沿溪東愈東愈
奇群峯夾水攢竦如春筍矗出有土戴石者石挾土者

全石者，全石破裂成洞穴者，兩石相鬪，其一欲仆者，石數層累成夏雲狀者，而樹自石罅橫生，縱生，倒生，而上指叢生蔽石，如與石爭勢，而欲勝之。石又自樹中奮躍而出，而石陰皆苔，紫綠相間，或沒石半面，或沒全身，又如援樹攻石者。大抵峯勢石皴，如董巨刻意圖。時窮冬，多老木葉脫，槎牙瘦古，皆倪黃筆法。而苔枯蹙蒼渴者，王叔明也。古人筆墨不吾欺也。至柿阪憩孤店，店面石壁數丈，飛泉懸焉。仰則更有高峯，不知其幾十丈。余急釋所佩酒瓢，命燂之。竈突蕭然，會一獵師，新獲豪猪，割而煮之，肪脆如水。連引數大白，又行溪，又數曲，隨峰勢

上下，或激雷噴雪，或淳膏凝碧，峰影爲之或碎或全，似水妬山而亂其影也。至屈智林溪，稍開，有小村，過一橋，自此行溪北，開者益開，數十里，詣古城，正行寺。寺主含公，余故人。埃余既久，余先詫曰：君州山水大奇。含公曰：更有奇者。使子目之。居二日，與含公南行，行田塍間，至仙人巖。巖石突立山頂，含公指示余，余不甚賞其明，又徑田塍，至羅漢寺。寺据山，鑿山作洞壑，橋梁狀，安五百像。余復不甚賞。宿寺前，逆旅挑燈而談。余曰：山不得水，不生動，石不得樹，不蒼潤。所以余賞馬溪，而不賞仙巖。至於羅漢，則人工耳。然皆馬溪之支裔矣。且馬溪，溪山

相迫無田塍礙目而其路坦夷真可遊也。然爲二豐通
道過者慣看。況公等生長此土宜不覺其奇也。余則再
遊不可期。將復溯之以諦觀之。含公奮袂與偕。早發過
一水北出馬溪口峰容樹色忽覺迴別自淺入深自平
入奇。泝前數曲者一曲奇於一曲。比諸前遊更可喜也。
復至絕壁下孤店店主識余面驚曰是前喫猪客也。有
何幹再來此耶。余曰欲看山耳。曰山有何好看。吾不禁
子看也。遂席溪畔與含公傾瓢一醉宿山寺。明雨借轎
西還山峰得雨皆變幻作態。或前以爲一山者分成數
峯如群仙駢肩露其半身萬松振鬣鼓濤於雲中又如

廿五菩薩奏樂而至也。還至屈智林含公慮吾酒盡預
戒家僮馱樽於馬來取醉宿阿保村翌歸寺。又三日辭
去踰海東歸自海雲中顧望鎮西山岳其屬豐前者皆
有別態彥山其尤大者耶馬山脈水理蓋皆自彥山發
故獨絕耳。余足跡幾半海內弱冠東遊得妙義山以爲
無雙。今馬溪百里如妙義者不知幾十峰謂之海內第
一或不誣也。己卯之臘肱橐得爾時寫山粉本數紙戲
以意接屬之爲橫長一卷又記其由併錄所得詩九首。
余詩文笨拙不足狀其髣髴。況畫乎。後有能者如董巨
倪黃之流者踞其境而補成之庶幾不負此山水。然目

此山水爲海內第一者，乃自賴子成始圖爲舍公取去。備後故友橋元吉亦好山水，請爲寫一本，諾而未果。今茲己丑，護母至尾路，留旬日，乃踐前約而舊圖不在。尋諸胸臆，冥搜默運，覺山精水神或來助我，遂能成此。屈指已十二年矣。憶當時歸帆外，豐山依依如相送者，今猶在目中。

泊天草洋

賴 襄

雲耶山耶吳耶越

水天髣髴青一髮

萬里泊舟天草洋

煙橫篷窓日漸沒

瞥見大魚波間跳

太白當船明似月

雜說

韓 愈

世有伯樂，然後有千里馬。千里馬常有，而伯樂不常有。故雖有名馬，祇辱於奴隸之手，駢死於槽櫪之間，不以千里稱也。馬之千里者，一食或盡粟一石。今食馬者，不知其能千里而食也。是馬也，雖有千里之能，食不飽，力不足，才美不外見。且欲與常馬等，不可得。安求其能千里也？策之不以其道，食之不能盡其材，鳴之而不能通其意，執策而臨之，曰：天下無馬，嗚呼其真無馬邪？其真

不知馬也。

送温處士赴河陽軍序

韓

愈

伯樂一過冀北之野，而馬羣遂空。夫冀北馬多於天下，伯樂雖善知馬，安能空其羣邪？解之者曰：吾所謂空，非無馬也，無良馬也。伯樂知馬，遇其良，輒取之，羣無留良焉。苟無留其良，雖謂無馬，不爲虛語矣。東都固士大夫之冀北也。懷才能深藏而不市者，洛之北涯曰石生，其南涯曰温生。大夫烏公以鈇鉞鎮河陽之三月，以石生爲才，以禮爲羅，羅而致之幕下。未數月也，以温生爲才。

於是，以石生爲媒，以禮爲羅，又羅而致之幕下。東都雖信多才士，朝取一人焉，拔其尤，暮取一人焉，拔其尤，自居守河南尹，以及百司之執事，與吾輩二縣之大夫，政有所不通，事有所可疑，奚所諮處焉？士大夫之去位而巷處者，誰與嬉遊？小子後生，於何考德而問業焉？搢紳之東西行過是都者，無所禮於其廬。若是而稱曰：大夫烏公一鎮河陽，而東都處士之廬無人焉，豈不可也？夫南面而聽天下，其所託重而恃力者，惟相與將耳。相爲天子，得人於朝廷，將爲天子，得文武士於幕下，求內外無治，不可得也。愈縻於茲，不能引去，資二生以待老。今

皆爲有力者，奪之其何能無介然於懷邪？生既至，拜公於軍門，其爲吾以前所稱爲天下賀，以後所稱爲吾致私怨於盡取也。留守相公首爲四韻詩，歌其事，愈因推其意而序之。

送元二使安西

王維

渭城朝雨浥輕塵，
勸君更盡一杯酒。

客舍青青柳色新，
西出陽關無故人。

胡笳歌送顏真卿使赴河隴

岑參

君不聞胡笳聲最悲，
吹之一曲猶未了。

紫髯綠眼胡人吹，
愁殺樓蘭征戍兒。

涼秋八月蕭關道，
崑崙山南月欲斜。

北風吹斷天山草，
胡人向月吹胡笳。

岳陽樓記

范仲淹

慶曆四年春，滕子京謫守巴陵郡。越明年，政通人和，百廢具興。乃重修岳陽樓，增其舊制，刻唐賢今人詩賦于

其上屬予作文以記之。予觀夫巴陵勝狀，在洞庭一湖，
銜遠山，吞長江，浩浩湯湯，橫無際涯，朝暉夕陰，氣象萬
千。此則岳陽樓之大觀也。前人之述備矣。然則北通巫
峽，南極瀟湘，遷客騷人，多會于此。覽物之情，得無異乎？
若夫霏雨霏霏，連月不開，陰風怒號，濁浪排空，日星隱
耀，山岳潛形，商旅不行，檣傾楫摧，薄暮冥冥，虎嘯猿啼，
登此樓也，則有去國懷鄉，憂讒畏譏，滿目蕭然，感極而
悲者矣。至若春和景明，波瀾不驚，上下天光，一碧萬頃，
沙鷗翔集，錦鱗游泳，岸芷汀蘭，郁郁青青，而或長煙一
空，皓月千里，浮光躍金，靜影沈璧，漁歌互答，此樂何極。

登斯樓也，則有心曠神怡，寵辱偕忘，把酒臨風，其喜洋
洋者矣。嗟夫，予嘗求古仁人之心，或異二者之爲，何哉。
不以物喜，不以己悲，居廟堂之高，則憂其民；處江湖之
遠，則憂其君。是進亦憂，退亦憂。然則何時而樂耶？其必
曰：先天下之憂而憂，後天下之樂而樂乎。噫，微斯人，吾
誰與歸。時六年九月十五日。

登岳陽樓

杜甫

昔聞洞庭水，今上岳陽樓。
吳楚東南坼，乾坤日夜浮。
親朋無一字，老病有孤舟。

戎馬關山北 憑軒涕泗流

黃鶴樓

崔顥

昔人已乘黃鶴去 此地空餘黃鶴樓
黃鶴一去不復返 白雲千載空悠悠
晴川歷歷漢陽樹 芳草萋萋鸚鵡洲
日暮鄉關何處是 煙波江上使人愁

登金陵鳳凰臺

李白

鳳凰臺上鳳凰遊 鳳去臺空江自流

吳宮花草埋幽徑 晉代衣冠成古丘
三山半落青天外 一水中分白鷺洲
總為浮雲能蔽日 長安不見使人愁

獨樂園記

司馬光

孟子曰：獨樂樂，不如與人樂樂；與少樂樂，不如與衆樂樂。此王公大人之樂，非貧賤者所及也。孔子曰：飯蔬食，飲水，曲肱而枕之，樂亦在其中矣。顏子一簞食，一瓢飲，不改其樂。此聖賢之樂，非愚者所及也。若夫鷓鴣巢林，不過一枝；偃鼠飲河，不過滿腹。各盡其分而安之，此乃

迂叟之所樂也。熙寧四年，迂叟始家洛。六年，買田二十畝於尊賢坊北關，以爲園。其中爲堂，聚書五千卷，命之曰讀書堂。迂叟平日多處堂中讀書。上師聖人，下友羣賢，窺仁義之原，探禮樂之緒。自未始有形之前，暨四達無窮之外，事物之理，舉集目前。所病學之未至，夫又何求於人。何待於外哉。志倦體疲，則投竿取魚，執衽采藥，決渠灌花，操斧剖竹，濯熱盥手，臨高縱目，逍遙徜徉，惟意所適。明月時至，清風自來，行無所牽，止無所柅。耳目肺腸，悉爲己有。踴躍焉，洋洋焉，不知天壤之間，復有何樂，可以代此也。因合而命之曰獨樂園。或咎迂叟曰：吾

聞君子所樂，必與人共之。今吾子獨取足於己，不及人，其可乎。迂叟謝曰：叟愚何得比君子。自樂恐不足安能及人。況叟之所樂者，薄陋鄙野，皆世之所弃也。雖推以與人，人且不取，豈得強之乎。必也有人肯同此樂，則再拜而獻之矣。安敢專之哉。

喜雨亭記

蘇軾

亭以雨名，志喜也。古者有喜則以名物，示不忘也。周公得禾，以名其書；漢武得鼎，以名其年；叔孫勝狄，以名其子。其喜之大小不齊，其示不忘一也。余至扶風之明年，

始治官舍爲亭於堂之北而鑿池其南引流種木以爲
休息之所是歲之春雨麥於岐山之陽其占爲有年既
而彌月不雨民方以爲憂越三月乙卯乃雨甲子又雨
民以爲未足丁卯大雨三日乃止官吏相與慶於庭商
賈相與歌於市農夫相與扞於野憂者以喜病者以愈
而吾亭適成於是舉酒於亭上以屬客而告之曰五日
不雨可乎曰五日不雨則無麥十日不雨可乎曰十日
不雨則無禾無麥無禾歲且荐飢獄訟繁興而盜賊滋
熾則吾與二三子雖欲優游以樂於此亭其可得耶今
天不遺斯民始旱而賜之以雨使吾與二三子得相與

優遊而樂於此亭者皆雨之賜也其又可忘耶既以名
亭又從而歌之曰使天而雨珠寒者不得以爲襦使天
而雨玉飢者不得以爲粟一雨三日繫誰之力民曰太
守太守不有歸之天子天子曰不然歸之造物造物不
自以爲功歸之太空太空冥冥不可得而名吾以名吾
亭

方山子傳

蘇

軾

方山子光黃間隱人也少時慕朱家郭解爲人閭里之
俠皆宗之稍壯折節讀書欲以此馳騁當世然終不遇

晚乃遯於光黃間。曰岐亭。庵居蔬食。不與世相聞。棄車馬。毀冠服。徒步往來山中。人莫識也。見其所著帽。方屋而高。曰。此豈古方山冠之遺像乎。因謂之方山子。余謫居於黃。過岐亭。適見焉。曰。嗚呼。此吾故人陳慥季常也。何爲而在此。方山子亦矍然問余。所以至此者。余告之。故俯而不答。仰而笑。呼余宿其家。環堵蕭然。而妻子奴婢皆有自得之意。余既聳然異之。獨念方山子少時。使酒好劍。用財如糞土。前十有九年。余在岐山。見方山子從兩騎。挾二矢。游西山。鵠起於前。使騎逐而射之。不獲。方山子怒馬。獨出一發得之。因與余馬上論用兵及古

今成敗。自謂一世豪士。今幾日耳。精悍之色。猶見於眉間。而豈山中之人哉。方山子世有勳閥。當得官。使從事於其間。今已顯聞。而其家在洛陽。園宅壯麗。與公侯等。河北有田。歲得帛千匹。亦足以富樂。皆棄不取。獨來窮山中。此豈無得而然哉。余聞光黃間多異人。往往陽狂垢汗。不可得而見。方山子儻見之與。

與微之書

白居易

四月十日夜。樂天白。微之。微之。不見足下面。已三年矣。不得足下書。欲二年矣。人生幾何。離闊如此。況以膠漆

之心置於胡越之身。進不得相合。退不得相忘。牽攀乖
隔。各欲白首。微之微之。如何。如何。天實爲之。謂之柰何。
僕初到潯陽時。有熊孺登來。得足下前年病甚時一札。
上報疾狀。次序病心。終論平生交分。且云危憊之際。不
暇及他。唯收數帙文章。封題其上。曰他日送達白二十
二郎。便請以代書。悲哉。微之於我也。其若是乎。又睹所
寄。聞僕左降詩云。

殘燈無焰影憧憧。

此夕聞君謫九江。

垂死病中驚起坐。

聞風吹雨入寒窗。

此句他人尙不可聞。況僕心哉。至今每吟。猶惻惻耳。且

置是事。略敘近懷。僕自到九江。已涉三載。形骸且健。方
寸甚安。下至家人。幸皆無恙。長兄去夏自徐州至。又有
諸院孤小弟妹六七人。提挈同來。頃所牽念者。今悉置
在目前。得同寒煖。饑飽。此一泰也。江州風候稍涼。地少
瘴癘。乃至蛇虺蚊蚋。雖有甚稀。溢魚頗肥。江酒極美。其
餘食物多類北地。僕門內之口。雖不少。司馬之俸。雖不
多。量入儉用。亦可自給。身衣口食。且免求人。此二泰也。
僕去年秋。始遊廬山。到東西二林間。香爐峯下。見雲水
泉石。勝絕第一。愛不能捨。因置草堂。前有喬松十數株。
脩竹千餘竿。青蘿爲牆垣。白石爲橋道。流水周於舍下。

飛泉落於簷間。紅榴白蓮，羅生池砌。大抵若是，不能殫
記。每一獨往，動彌旬日。平生所好者，盡在其中。不唯忘
歸，可以終老。此三秦也。計足下久不得僕書，必加憂望。
今故錄三秦，以先奉報。其餘事況，條寫如後。云微之，
微之。作此書夜，正在草堂中，山窗下。信手把筆，隨意亂
書。封題之時，不覺欲曙。舉頭但見山僧一兩人，或坐或
睡。又聞山猿谷鳥哀鳴啾啾。平生故人，去我萬里，瞥然
塵念。此際暫生。餘習所牽，便成三韻。云

憶昔封書與君夜，金鑾殿後欲明天。
今夜封書在何處，廬山菴裏曉燈前。

籠鳥檻猿俱未死，人間相見是何年。
微之微之。此夕我心，君知之乎。樂天頓首。

贈元稹

白居易

自我從宦遊，七年在長安。所得惟元九，
乃知定交難。豈無山上苗，徑寸無歲寒。
豈無要津水，咫尺有波瀾。之子異於是，
久處誓不諼。無波古井水，有節秋竹竿。
一爲同心友，三及芳歲闌。花下鞍馬遊，
雪中杯酒歡。衡門相逢迎，不具帶與冠。

春風日高睡，秋月夜深看。
不為同署官，所合在方寸。
心源無異端，

金鑾子 醉日

白居易

行年欲四十，有女曰金鑾。
學坐未能言，慙非達者懷。
從此累身外，徒云慰目前。
則有婚嫁牽，使我歸山計。
生來始周歲，未免俗情怜。
若無夭折患，應遲十五年。

議婚 秦中吟之一

白居易

天下無正聲，悅耳即為娛。
悅目即為姝，顏色非相遠。
貧為人所棄，富為時所趨。
金縷繡羅襦，見人不斂手。
嬌癡二八初，綠窓貧家女。
母兄未開口，已嫁不須臾。
寂寞二十餘，荆釵不直錢。
衣上無真珠，主人會良媒。
幾回人欲聘，臨日人踟躕。
聽我歌兩途，
置酒滿玉壺，四座且勿飲。
富家女易嫁，貧家女難嫁。
嫁晚孝於姑，聞君欲娶婦。
娶婦意何如

桃夭 (詩經)

桃之夭夭 灼灼其華 之子于歸 宜其家室

桃之夭夭 有蕢其實 之子于歸 宜其家室

桃之夭夭 其葉蓁蓁 之子于歸 宜其家人

(周南)

新嫁娘

王建

三日入厨下 洗手作羹湯 未諳姑食性

先遣小姑嘗

戒耳餐

袁枚

何謂耳餐。耳餐者務名之謂也。貪貴物之名。夸敬客之意。是以耳餐非口餐也。不知豆腐得味。遠勝燕窩。海菜不佳。不如蔬笋。余嘗謂雞猪魚鴨。豪傑之士也。各有本味。自成一家。海參燕窩。庸陋之人也。全無性情。寄人籬下。嘗見某太守燕客。大碗如缸。白煮燕窩。四兩絲毫無味。人爭夸之。余笑曰。我輩來喫燕窩。非來販燕窩也。可販不可喫。雖多奚爲。若徒夸體面。不如碗中竟放明珠百粒。則價值萬金矣。其如喫不得何。(隨園食單)

祭十二郎文

韓

愈

年月日、季父愈聞汝喪之七日、乃能銜哀、致誠、使建中遠具時羞之奠、告汝十二郎之靈、嗚呼、吾少孤、及長、不省所怙、惟兄嫂是依。中年兄歿、南方吾與汝俱幼、從嫂歸葬河陽、既又與汝就食江南、零丁孤苦、未嘗一日相離也。吾上有三兄、皆不幸早世、承先人後者、在孫惟汝、在子惟吾、兩世一身、形單影隻、嫂常撫汝、指吾而言曰、韓氏兩世、惟此而已。汝時尤小、當不復記憶、吾時雖能記憶、亦未知其言之悲也。吾年十九、始來京城、其後四

年而歸、視汝、又四年、吾往河陽省墳墓、遇汝、從嫂喪來葬、又二年、吾佐董丞相於汴州、汝來省吾、止一歲、請歸取其孥、明年丞相薨、吾去汴州、汝不果來、是年吾佐戎徐州、使取汝者始行、吾又罷去、汝又不果來、吾念汝從于東、東亦客也、不可以久、圖久遠者、莫如西歸、將成家而致汝、嗚呼、孰謂汝遽去吾而歿乎、吾與汝俱少年、以爲雖暫相別、終當久與相處、故捨汝而旅食京師、以求斗斛之祿、誠知其如此、雖萬乘之公相、吾不以一日輟汝而就也。去年孟東野往、吾書與汝曰、吾年未四十、而視茫茫、而髮蒼蒼、而齒牙動搖、念諸父與諸兄、皆康強

而早世如吾之衰者其能久存乎。吾不可去。汝不肯來。恐且暮死而汝抱無涯之戚也。孰謂少者歿而長者存。強者夭而病者全乎。嗚呼其信然邪。其夢邪。其傳之非其真邪。信也。吾兄之盛德而夭其嗣乎。汝之純明而不克蒙其澤乎。少者強者而夭歿。長者衰者而存全乎。未可以爲信也。夢也。傳之非其真也。東野之書。耿蘭之報。何爲而在吾側也。嗚呼其信然矣。吾兄之盛德而夭其嗣矣。汝之純明。宜業其家者。不克蒙其澤矣。所謂天者誠難測。而神者誠難明矣。所謂理者不可推。而壽者不可知矣。雖然。吾自今年來。蒼蒼者或化而爲白矣。動搖者或脫而落矣。毛血日益衰。志氣日益微。幾何不從。汝而死也。死而有知其幾何離其無知。悲不幾時而不悲者。無窮期矣。汝之子始十歲。吾之子始五歲。少而強者不可保。如此孩提者。又可冀其成立邪。嗚呼哀哉。嗚呼哀哉。汝去年書云。比得軟脚病。往往而劇。吾曰。是疾也。江南之人。常常有之。未始以爲憂也。嗚呼其竟以此而殞其生乎。抑別有疾而至斯乎。汝之書。六月十七日也。東野云。汝歿以六月二日。耿蘭之報。無月日。蓋東野之使者不知問家人。以月日。耿蘭之報。不知當言月日。東野與吾書。乃問使者。使者妄稱以應之耳。其然乎。其不

者或脫而落矣。毛血日益衰。志氣日益微。幾何不從。汝而死也。死而有知其幾何離其無知。悲不幾時而不悲者。無窮期矣。汝之子始十歲。吾之子始五歲。少而強者不可保。如此孩提者。又可冀其成立邪。嗚呼哀哉。嗚呼哀哉。汝去年書云。比得軟脚病。往往而劇。吾曰。是疾也。江南之人。常常有之。未始以爲憂也。嗚呼其竟以此而殞其生乎。抑別有疾而至斯乎。汝之書。六月十七日也。東野云。汝歿以六月二日。耿蘭之報。無月日。蓋東野之使者不知問家人。以月日。耿蘭之報。不知當言月日。東野與吾書。乃問使者。使者妄稱以應之耳。其然乎。其不

然乎。今吾使建中祭汝，弔汝之孤，與汝之乳母。彼有食，可守以待終喪，則待終喪而取，以來如不能守以終喪，則遂取以來，其餘奴婢，竝令守汝喪，吾力能改葬，終葬汝於先人之兆，然後惟其所願焉。嗚呼，汝病，吾不知時，汝歿，吾不知日，生不能相養以共居，歿不能撫汝以盡哀，斂不得憑其棺，窆不得臨其穴，吾何負神明而使汝夭。不孝不慈，而不得與汝相養以生，相守以死，一在天之涯，一在地之角，生而影不與吾形相依，死而魂不與吾夢相接，吾實爲之，其又何尤。彼蒼者天，曷其有極。自今以往，吾其無意於人世矣。當求數頃之田，於伊潁之

上，以待盡餘年，教吾子與汝子，幸其成，長吾女與汝女，待其嫁，如此而已。嗚呼，言有窮，而情不可終，汝其知也邪，其不知也邪。嗚呼哀哉，尙饗。

薤露歌

無名氏

薤上露，何易晞。
人死一去，何時歸。

露晞明朝，更復落。

蒿里曲

無名氏

蒿里誰家地，

聚斂魂魄，無賢愚。

鬼伯一何相催促 人命不得少踟蹰

送東陽馬生序

宋 濂

余幼時，卽嗜學。家貧，無從致書，以觀。每假借於藏書之家，手自筆錄，計日以還。天大寒，硯冰堅，手指不可屈伸，弗之怠。錄畢，走送之，不敢稍逾約。以是人多以書假余。余因得徧觀羣書。既加冠，益慕聖賢之道，又患無碩師名人與游。嘗趨百里外，從鄉之先達，執經叩問。先達德隆望尊，門人弟子填其室，未嘗稍降辭色。余立侍左右，援疑質理，俯身傾耳以請。或遇其叱咄，色愈恭，禮愈至，

不敢出一言以復。俟其欣悅，則又請焉。故余雖愚，卒獲有所聞。當余之從師也，負篋曳屣，行深山巨谷中。窮冬烈風，大雪深數尺，足膚皸裂而不知。至舍，四支僵勁，不能動。媵人持湯沃灌，以衾擁覆，久而乃和。寓逆旅，主人日再食，無鮮肥滋味之享。同舍生皆被綺繡，戴朱纓寶飾之帽，腰白玉之環，左佩刀，右備容臭，燁然若神人。余則緼袍弊衣，處其間，略無慕艷意。以中有足樂者，不知口體之奉不若人也。蓋余之勤且艱若此，今雖耄老，未有所成，猶幸預君子之列，而承天子之寵光，綴公卿之後，日侍坐備顧問，四海亦謬稱其氏名。況才之過於余，

者乎。今諸生學於太學。縣官日有廩稍之供。父母歲有
裘葛之遺。無凍餒之患矣。坐大廈之下。而誦詩書。無奔
走之勞矣。有司業博士爲之師。未有問而不告。求而不
得者也。凡所宜有之書。皆集于此。不必若余之手錄。假
諸人而後見也。其業有不精。德有不成者。非天質之卑。
則心不若余之專耳。豈他人之過哉。東陽馬生君則在
太學已二年。流輩甚稱其賢。余朝京師。生以鄉人子謁
余。撰長書以爲贊。辭甚暢達。與之論辯。言和而色夷。自
謂少時用心於學甚勞。是可謂善學者矣。其將歸。見其
親也。余故道爲學之難。以告之。謂余勉鄉人以學者。余

之志也。詆我夸際遇之盛。而驕鄉人者。豈知余者哉。

送友人

李白

青山橫北郭。白水遶東城。此地一爲別。
孤蓬萬里征。浮雲遊子意。落日故人情。
揮手自茲去。蕭蕭班馬鳴。

送別

王維

下馬飲君酒。問君何所之。君言不得意。
歸臥南山陲。但去莫復問。白雲無盡時。

送石昌言爲北使引

蘇

洵

昌言舉進士時，吾始數歲，未學也。憶與羣兒戲先府君側，昌言從旁取棗栗啖我。家居相近，又以親戚故甚狎。昌言舉進士，日有名。吾後漸長，亦稍知讀書，學句讀，屬對聲律，未成而廢。昌言聞吾廢學，雖不言，察其意甚恨。後十餘年，昌言及第第四人，守官四方，不相聞。吾日以壯大，乃能感悔，摧折復學。又數年，遊京師，見昌言，長安相與勞問，如平生歡。出文十數首，昌言甚喜稱善。吾晚學無師，雖日爲文中，甚自慚。及聞昌言說，乃頗自喜。今

十餘年，又來京師。而昌言官兩制，乃爲天子出使萬里之外，强悍不屈之虜庭。建大旆，從騎數百，送車千乘，出都門。意氣慨然，自思爲兒時，見昌言先府君旁，安知其至此。富貴不足怪，吾於昌言獨有感也。大丈夫生不爲將，得爲使，折衝口舌之間，足矣。往年彭任從富公使還，爲我言曰：「既出境，宿驛亭，聞介馬數萬騎馳過，劍槊相摩，終夜有聲，從者怛然失色。及明視道上馬跡，尙心掉不自禁。凡虜所以夸耀中國者，多此類。中國之人不測也。故或至於震懼而失辭，以爲夷狄笑。嗚呼！何其不思之甚也。昔者奉春君使冒頓，壯士大馬皆匿不見，是以

有平城之役。今之匈奴。吾知其無能爲也。孟子曰。說大人。則藐之。況於夷狄。請以爲贈。

懷古五絕

蘇臺覽古

李 白

舊苑荒臺楊柳新
菱歌清唱不勝春
只今唯有江西月
曾照吳王宮裏人

越中懷古

李 白

越王句踐破吳歸
義士還鄉盡錦衣
宮女如花滿春殿
只今唯有鷓鴣飛

烏衣巷 金陵五題之二

劉 禹 錫

朱雀橋邊野草花
烏衣巷口夕陽斜
舊時王謝堂前燕
飛入尋常百姓家

行 宮

元 稹

寥落古行宮
宮花寂寞紅
白頭宮女在
閑坐說玄宗

臺 城

韋 莊

江雨霏霏江草齊
六朝如夢鳥空啼
無情最是臺城柳
依舊煙籠十里堤

下 篇

孟子鈔

○孟子見梁惠王。王曰：叟，不遠千里而來，亦將有以利吾國乎？孟子對曰：王何必曰利？亦有仁義而已矣。王曰：何以利吾國？大夫曰：何以利吾家？士庶人曰：何以利吾身？上下交征利，而國危矣。萬乘之國，弑其君者，必千乘之家。千乘之國，弑其君者，必百乘之家。萬取千焉，千取百焉，不為不多矣。苟為後義而先利，不奪不饜，未有仁

而遺其親者也。未有義而後其君者也。王亦曰：仁義而已矣。何必曰利？（梁惠王上）

○梁惠王曰：寡人之於國也，盡心焉耳矣。河內凶，則移其民於河東，移其粟於河內。河東凶亦然。察鄰國之政，無如寡人之用心者。鄰國之民不加少，寡人之民不加多，何也？孟子對曰：王好戰，請以戰喻。填然鼓之，兵刃既接，棄甲曳兵而走。或百步而後止，或五十步而後止。以五十步笑百步，則何如？曰：不可。直不百步耳，是亦走也。曰：王知此，則無望民之多於鄰國也。不違農時，穀不可勝食也。數罟不入洿池，魚鼈不可勝食也。斧斤以時

入山林材木不可勝用也。穀與魚鼈不可勝食。材木不可勝用。是使民養生喪死無憾也。養生喪死無憾。王道之始也。五畝之宅。樹之以桑。五十者可以衣帛矣。雞豚狗彘之畜。無失其時。七十者可以食肉矣。百畝之田。勿奪其時。數口之家。可以無飢矣。謹庠序之教。申之以孝悌之義。頽白者不負戴於道路矣。七十者衣帛食肉。黎民不飢不寒。然而不王者。未之有也。狗彘食人食而不知檢。塗有餓莩而不知發。人死則曰非我也。歲也是何異於刺人而殺之。曰非我也。兵也。王無罪歲。斯天下之民至焉。(梁惠王上)

○齊宣王問曰。齊桓晉文之事。可得聞乎。孟子對曰。仲尼之徒。無道桓文之事者。是以後世無傳焉。臣未之聞也。無以則王乎。曰。德何如則可以王矣。曰。保民而王。莫之能禦也。曰。若寡人者。可以保民乎哉。曰。可。曰。何由知吾可也。曰。臣聞之。胡斲曰。王坐於堂上。有牽牛而過堂下者。王見之。曰。牛何之。對曰。將以釁鍾。王曰。舍之。吾不忍其觶。觶若無罪而就死地。對曰。然則廢釁鍾與。曰。何可廢也。以羊易之。不識有諸。曰。有之。曰。是心足以王矣。百姓皆以王爲愛也。臣固知王之不忍也。王曰。然誠有百姓者。齊國雖褊小。吾何愛一牛。卽不忍其觶。觶若無

罪而就死地。故以羊易之也。曰：王無異於百姓之以王爲愛也。以小易大。彼惡知之。王若隱其無罪而就死地，則牛羊何擇焉。王笑曰：是誠何心哉！我非愛其財，而易之以羊也。宜乎百姓之謂我愛也。曰：無傷也。是乃仁術也。見牛未見羊也。君子之於禽獸也，見其生，不忍見其死。聞其聲，不忍食其肉。是以君子遠庖厨也。王說曰：詩云：他人有心，予忖度之。夫子之謂也。夫我乃行之，反而求之，不得吾心。夫子言之，於我心有戚戚焉。此心之所以合於王者，何也。曰：有復於王者曰：吾力足以舉百鈞，而不足以舉一羽；明足以察秋毫之末，而不見輿薪，則

王許之乎。曰：否。今恩足以及禽獸，而功不至於百姓者，獨何與？然則一羽之不能舉，爲不用力焉；輿薪之不能爲，爲不用明焉；百姓之不見保，爲不用恩焉。故王之不見保，不爲也。非不能也。曰：不爲者與不能者之形，何以異？曰：挾泰山以超北海，語人曰：我不能，是誠不能也。爲長者折枝，語人曰：我不能，是不爲也，非不能也。故王之不見保，非挾泰山以超北海之類也。王之不王，是折枝之類也。老吾老，以及人之老；幼吾幼，以及人之幼，天下可運於掌。詩云：刑于寡妻，至于兄弟，以御于家邦。言舉斯心，加諸彼而已。故推恩足以保四海，不推恩無以保妻子。古之

人所以大過人者、無他焉、善推其所爲而已矣。今恩足
以及禽獸、而功不至於百姓者、獨何與、權然後知輕重、
度然後知長短、物皆然、心爲甚。王請度之。抑王興甲兵、
危士臣、構怨於諸侯、然後快於心與。王曰、否、吾何快於
是。將以求吾所大欲也。曰、王之所大欲、可得聞與。王笑
而不言。曰、爲肥甘不足於口、與、輕煖不足於體、與、抑爲
采色不足視於目、與、聲音不足聽於耳、與、便嬖不足使
令於前、與、王之諸臣、皆足以供之。而王豈爲是哉。曰、否、
吾不爲是也。曰、然則王之所大欲、可知已。欲辟土地、朝
秦楚、莅中國、而撫四夷也。以若所爲、求若所欲、猶緣木

而求魚也。王曰、若是其甚與。曰、殆有甚焉。緣木求魚、雖
不得魚、無後災。以若所爲、求若所欲、盡心力而爲之、後
必有災。曰、可得聞與。曰、鄒人與楚人戰、則王以爲孰勝、
曰、楚人勝。曰、然則小固不可以敵大、寡固不可以敵衆、
弱固不可以敵強。海內之地、方千里者九、齊集有其一、
以一服八、何以異於鄒敵楚哉。蓋亦反其本矣。今王發
政施仁、使天下仕者皆欲立於王之朝、耕者皆欲耕於
王之野、商賈皆欲藏於王之市、行旅皆欲出於王之塗、
天下之欲疾其君者、皆欲赴愬於王、其若是、孰能禦之。
王曰、吾慚不能進於是矣。願夫子輔吾志、明以教我。我

雖不敏請嘗試之。曰無恆產而有恆心者惟士爲能。若民則無恆產因無恆心。苟無恆心放辟邪侈無不爲已。及陷於罪然後從而刑之是罔民也。焉有仁人在位罔民而可爲也。是故明君制民之產必使仰足以事父母俯足以畜妻子樂歲終身飽凶年免於死亡然後驅而之善故民之從之也輕。今也制民之產仰不足以事父母俯不足以畜妻子樂歲終身苦凶年不免於死亡此惟救死而恐不贍奚暇治禮義哉。王欲行之則盍反其本矣。（梁惠王上）

○孟子曰不仁者可與言哉安其危而利其菑樂其所

以亡者不仁而可與言則何亡國敗家之有。有孺子歌曰滄浪之水清兮可以濯我纓。滄浪之水濁兮可以濯我足。孔子曰小子聽之。清斯濯纓濁斯濯足矣。自取之也。夫人必自侮然後人侮之。家必自毀而後人毀之。國必自伐而後人伐之。太甲曰天作孽猶可違自作孽不可活。此之謂也。（離婁上）

○公孫丑曰君子不教子何也。孟子曰勢不行也。教者必以正。以正不行繼之以怒。繼之以怒則反夷矣。夫子教我以正夫子未出於正也。則是父子相夷也。父子相夷則惡矣。古者易子而教之。父子之間不責善。責善則

離。離則不祥莫大焉。(離婁上)

○齊人有一妻一妾而處室者。其良人出則必饜酒肉。而後反。其妻問所與飲食者。則盡富貴也。其妻告其妾曰。良人出則必饜酒肉。而後反。問其與飲食者。盡富貴也。而未嘗有顯者來。吾將瞞良人之所之也。蚤起。施從良人之所之。徧國中無與立談者。卒之東郭墦間之祭者。乞其餘。不足又顧而之他。此其爲饜足之道也。其妻歸告其妾曰。良人者所仰望而終身也。今若是與其妾訕其良人。而相泣於中庭。而良人未之知也。施施從外來。驕其妻妾。由君子觀之。則人之所以求富貴利達者。

其妻妾不羞也。而不相泣者。幾希矣。(離婁下)

○公都子曰。告子曰。性無善無不善也。或曰。性可以爲善。可以爲不善。是故文武興則民好善。幽厲興則民好暴。或曰。有性善。有性不善。是故以堯爲君。而有象。以瞽瞍爲父。而有舜。以紂爲兄之子。且以爲君。而有微子啓。王子比干。今日性善。然則彼皆非與。孟子曰。乃若其情。則可以爲善矣。乃所謂善也。若夫爲不善。非才之罪也。惻隱之心。人皆有之。羞惡之心。人皆有之。恭敬之心。人皆有之。是非之心。人皆有之。惻隱之心。仁也。羞惡之心。義也。恭敬之心。禮也。是非之心。智也。仁義禮智。非由外

鑠我也。我固有之也。弗思耳矣。故曰：求則得之，舍則失之。或相倍蓰而無算者，不能盡其才者也。詩曰：天生蒸民，有物有則。民之秉夷好，是懿德。孔子曰：爲此詩者，其知道乎？故有物必有則，民之秉夷也，故好是懿德。（告子上）

○孟子曰：富歲子弟多賴，凶歲子弟多暴，非天之降才爾殊也。其所以陷溺其心者然也。今夫粦麥，播種而耰之，其地同，樹之時又同，淳然而生，至於日至之時，皆熟矣。雖有不同，則地有肥磽，雨露之養，人事之不齊也。故凡同類者，舉相似也。何獨至於人而疑之？聖人與我同類者，故龍子曰：不知足而爲屨，我知其不爲黃也。屨之

相似，天下之足同也。口之於味，有同耆也。易牙先得我口之所耆者也。如使口之於味也，其性與人殊，若犬馬之與我不同類也，則天下何耆皆從易牙之於味也？至於味，天下期於易牙，是天下之口相似也。惟耳亦然。至於聲，天下期於師曠，是天下之耳相似也。惟目亦然。至於子都，天下莫不知其姣也。不知子都之姣者，無目者也。故曰：口之於味也，有同耆焉；耳之於聲也，有同聽焉；目之於色也，有同美焉。至於心，獨無所同然乎？心之所同然者，何也？謂理也。義也。聖人先得我心之所同然耳。故理義之悅我心，猶芻豢之悅我口。（告子上）

○孟子曰、魚、我所欲也。熊掌亦我所欲也。二者不可得兼、舍魚而取熊掌者也。生亦我所欲也。義亦我所欲也。二者不可得兼、舍生而取義者也。生亦我所欲、所欲有甚於生者、故不爲苟得也。死亦我所惡、所惡有甚於死者、故患有所不辟也。如使人之所欲莫甚於生、則凡可以得生者、何不用也。使人之所惡莫甚於死者、則凡可以辟患者、何不爲也。由是則生而有不用也。由是則可以辟患而有不爲也。是故所欲有甚於生者、所惡有甚於死者、非獨賢者有是心也。人皆有之、賢者能勿喪耳。一簞食、一豆羹、得之則生、弗得則死、噉爾而與之、行道

之人弗受、蹴爾而與之、乞人不屑也。萬鍾則不辨禮義而受之、萬鍾於我何加焉。爲宮室之美、妻妾之奉、所識窮乏者得我與、鄉爲身死而不受、今爲宮室之美、爲之、鄉爲身死而不受、今爲妻妾之奉、爲之、鄉爲身死而不受、今爲所識窮乏者得我而爲之、是亦不可以已乎。此之謂失其本心。(告子上)

○孟子曰、欲貴者、人之同心也。人人有貴於己者、弗思耳。人之所貴者、非良貴也。趙孟之所貴、趙孟能賤之。詩云、既醉以酒、既飽以德。言飽乎仁義也。所以不願人之膏粱之味也。令聞廣譽施於身、所以不願人之文繡也。

(告子上)

○孟子曰、仁之勝不仁也、猶水勝火、今之爲仁者、猶以一杯水、救一車薪之火、不熄則謂之水不勝火、此又與於不仁之甚者也、亦終必亡而已矣。(告子上)

○孟子曰、人之所不學而能者、其良能也、所不慮而知者、其良知也、孩提之童、無不知愛其親者、及其長也、無不知敬其兄也、親親仁也、敬長義也、無他、達之天下也。

(盡心上)

○孟子曰、君子有三樂、而王天下不與存焉、父母俱存、兄弟無故、一樂也、仰不愧於天、俯不忤於人、二樂也、得

天下英才、而教育之、三樂也、君子有三樂、而王天下不與存焉。(盡心上)

○孟子曰、養心莫善於寡欲、其爲人也寡欲、雖有不存焉者、寡矣、其爲人也多欲、雖有存焉者、寡矣。(盡心下)

中庸鈔

○天命之謂性、率性之謂道、修道之謂教、道也者、不可須臾離也、可離非道也、是故君子戒慎乎其所不睹、恐懼乎其所不聞、莫見乎隱、莫顯乎微、故君子慎其獨也、喜怒哀樂之未發、謂之中、發而皆中節、謂之和、中也者、

天下之大本也。和也者，天下之達道也。致中和，天地位焉，萬物育焉。

○凡爲天下國家，有九經。曰：修身也，尊賢也，親親也，敬大臣也，體群臣也，子庶民也，來百工也，柔遠人也，懷諸侯也。修身則道立，尊賢則不惑，親親則諸父昆弟不怨，敬大臣則不眩，體群臣則士之報禮重，子庶民則百姓勸，來百工則材用足，柔遠人則四方歸之，懷諸侯則天下畏之。

齊明盛服，非禮不動，所以修身也。去讒遠色，賤貨而貴德，所以勸賢也。尊其位，重其祿，同其好惡，所以勸親親也。官盛任使，所以勸大臣也。忠信重祿，所以勸士也。時使薄斂，所以勸百姓也。日省月試，既廩稱事，所以勸百工也。送往迎來，嘉善而矜不能，所以柔遠人也。繼絕世，舉廢國，治亂持危，朝聘以時，厚往而薄來，所以懷諸侯也。

凡爲天下國家，有九經。所以行之者一也。凡事豫則立，不豫則廢。言前定則不跲，事前定則不困，行前定則不疚，道前定則不窮。

在下位，不獲乎上，民不可得而治矣。獲於上有道，不信乎朋友，不獲乎上矣。信乎朋友有道，不順乎親，不信乎

朋友矣。順於親。有道反諸身。不誠不順乎親矣。誠身有道。不明乎善。不誠乎身矣。誠者天之道也。誠之者人之道也。博學之。審問之。慎思之。明辨之。篤行之。有弗學。學之弗能。弗措也。有弗問。問之弗知。弗措也。有弗思。思之弗得。弗措也。有弗辨。辨之弗明。弗措也。有弗行。行之弗篤。弗措也。人一能之。己百之。人十能之。己千之。果能此道矣。雖愚必明。雖柔必強。

附篇

○師說 △韓愈 唐ノ中葉ノ文人。古文ヲ唱フ。論文ニ巧ナリ。字ハ退之。官吏部侍郎ニ至ル。昌黎ノ人ナレバ韓昌黎トヨバレ、文ト諡セラレタレバ韓文公トイハル。△聖人無常師。論語子張篇ニ「夫子焉不學、而亦常師之有。」ト。△鄉子 鄒國ノ君、子ハ爵位。鄒國ハ今ノ山東省鄒城縣ノ西南ニアタル。孔子嘗ツテ官名ニツイテ問ヘリ。△莒弘 周ノ敬王ノ大夫。孔子樂ヲ問ヘリト。△師襄 魯ノ樂官。孔子ニツイテ琴ヲ學ベリ。△老聃 イハユル老子。楚ノ人トイフ。傳ニ疑多シ。孔子ツイテ禮ヲ學ベリトイフ舊說ハ從ハザル者多シ。△三人行云々 論語述而篇ノ語。○示姪孫湘 △藍關 今ノ陝西省長安ト商縣トノ間ニアリ。△潮州 今ノ廣東省潮安縣。汕頭ニ近シ。△秦嶺 甘肅省阜蘭ヨリ陝西ヲ經テ河南陝縣ニ至ル。△瘴江 粵江（珠江）。

○論東漢教化 △袁安 字ハ邵公。章帝ノ時ニ河南ノ尹トナリテ嚴格、司徒ニ陞リ、和帝ノ時ニ震太后朝政ヲトリテ、兄憲擅橫、之ヲ彈劾ス。△楊震 字ハ伯起。學ヲ好ミテ博覽、諸儒關西ノ孔子楊伯起トヨブ。累官シテ太尉トナル。官ニ在リテ清廉忠直、外戚姦臣ニ反對シ、之ヲ誅スル能ハザルヲ歎イテ自殺ス。△李固 字ハ子堅。沖帝ノ時太尉トナリ、後、梁冀ノ誣告ニヨツテ殺サル。△杜喬 字ハ叔榮。順帝ノ時大司農トナリ、梁ノ一門ガ功ナクシテ封爵セラレシヲ諫メ、獄ニ投セラレテ死ス。△陳蕃 字ハ仲舉。靈帝ノ時太傅トナリ、マモナク宦官ヲ除カントシテ殺サル。△李膺 字ハ元禮。桓帝ノ時司隸校尉トナリ、聲名アリ。竇武・陳蕃等ト宦官ヲ誅セントシテ殺サル。△符融 字ハ偉明。太學ニ遊ンデ李膺ニ師事シ、名聲アレド、遂ニ仕ヘズ。△郭泰 字ハ林宗。博ク學ビ、善ク談シ、李膺ノ奇トスル所トナリ、友トナル。ヨツテ名京師ニ震ヘド、直言セズ、宦官ノ害ヲ免

ル。△范滂 字ハ孟博。少クシテ清節アリ。光祿勳主事タリシユトアレド、マモナク官ヲ去ル。後、宦官ノ爲ニ害ニアフ。△許都 字ハ子將。汝南ノ人。好シテ郷黨ノ人物ヲ評論シ、毎月品題アリ。故ニ汝南ノ俗ニ月旦ノ評アリ。△何進 字 遂高。靈帝ノ時ニ大將軍トナリ、宦官ヲ誅セントシテ兵ヲ集メ、却ツテ誘殺セラル。△董卓 字ハ仲穎。何進ノ召ニ應ジテ入京セントシテ後レ、少帝ヲ廢シテ獻帝ヲ立テ、暴逆甚シク、ソノ將呂布ニ殺サシメテ袁紹 字 本初。何進ノ殺サル、ヤ、宦官ヲ襲ヒテ之ヲ誅シ、後卓トアハズシテ冀州ニ奔リ、兵ヲ起シテ卓ヲ討ツヲ以テ名トナス。卓ノ死後、ナホ河北ニ據リ、後曹操ト官渡ニ戦ヒテ敗レテ病死ス。△魏武 曹操。

○水魚之交 △建安 漢ノ獻帝ノ年號(一九六一二一九)。△琅琊 今ノ山東省諸城縣附近。△諸葛亮 字ハ孔明。劉備及ビソノ子後主ヲ輔ケテ、蜀漢ノ重鎮タリ。△隆中 山名。湖北省襄陽縣ノ西

將軍トナリ、西郷侯ニ封セラレシガ、嚴ニ過ギテ殺サル。△龐統 字ハ士元。後、備ニ仕ヘテ、獻策スル所多カリシガ、流矢ニ中リテ死セリ。△德操 司馬徽ノ字。
○五柳先生傳 △宅邊 彭澤令タリシ時ノ宅ニ非ズ。郷里ノ宅ナリ。△黔婁 齊人。姓ハ庾。清貧ニ安ンジテ仕ヘズ。齊王事アレバ自ラ往キ問フ。著書ヲ黔婁子トイフ。老莊ノ流ナリ。△無懷氏 葛天氏 傳説中ノ聖王。
○責子 △志學 十五歳。
○歸去來兮辭 △已往之不諫 論語微子篇ニ「往者不可諫、來者猶可追。」ト。
○歸園田居 △樊籠裏 官吏ノ生活ヲ籠中ノ鳥ニ喩ヘシナリ。
○范魯公曉從子 △范魯公 名ハ質、字ハ文素。五代周ノ宰相。宋ニ事ヘテ魯國公ニ封セラル。性廉潔。從子杲ハ兄ノ子。△遷秩 榮轉。△學而優則仕 論語子張篇ノ語。△不患人不知 同憲問篇

ニアリ。△潁川 郡名。今河南省禹縣附近。△新野 今河南省南部新野縣ノ南。△曹操 武將。字ハ孟德。黃巾ノ賊及ビ董卓ヲ撃チ、獻帝ヲ迎ヘテ、袁術・袁紹ヲ破リ、丞相。大將軍トナリ、魏王ヲ稱セリ。後、武帝トヨバル。△孫權 吳ノ初代ノ君。字ハ仲謀。兄策ヲ繼ギ、江東ニ據リ、曹操ヲ赤壁ニ破ツテ帝ヲ稱ス。吳ノ大帝トヨバル。△漢長江ノ支流。武漢ニテ江ニ注グ。△沔 漢水ノ上流、陝西省内ノ稱。△吳會 今江蘇省吳縣(蘇州)。會稽郡治モト吳ニアリシ故トイフ。一説ニ會ヲ都會ノ意ニ探ル。△巴 今ノ四川省内。△益州 今ノ四川省ノ地、州廳所在地ハ今ノ成都。△劉璋 益州刺史。後備ニ降ル。△張魯 父祖ノ後ヲ承ケテ巴漢ニ據リ、魏ニ降リテ封セラル。△關羽 字ハ雲長。髯美シカリシトイハル。張飛ト備ニ仕ヘ、一時曹操ニ捕ヘラレテ壽亭侯タリ。ヤガテ備ノ下ニ奔リ、荊州ニアリシガ孫權ニ殺サル。今ニ關帝廟トシテ諸方ニ祀ラル。△張飛 字ハ益德。車騎

ニ「不患人之不知、患其不能也。」ト。△遠恥辱 同學而篇ニ「恭近於禮、遠恥辱也。」ト。△相鼠 詩經鄘風(鄙ノ地方ノ民謠)ノ篇名、無禮ヲ刺リシ詩。△茅鴟 襄公二十八年ノ左傳ニ篇名ト見ユル詩。注ニ不敬ヲ刺ルト。△周公旦 ト孔子ト。△八達 晉ノ光逸 胡毋輔之・謝鯤・阮放・畢卓・羊曼・桓彝 阮孚ノ八人、終日清談飲酒セシユト、晉書光逸傳ニ見ユ。當時ニ稱セラレンモ、禮法ヲ缺キ、名教ニ害アリ。△金蘭 易繫辭上傳ニ曰ク「二人同心、其利斷金、同心之言、其臭如蘭。」ト。△好承奉 他人ガ己ニ氣ニ入ルヤウニツトムルコトヲ好ムナリ。△蘧除 ハトムネ。承奉ヲウクル者ノ態ニ喩フ。△戚施 セムシ、承奉スル者ノ態ニ喩フ。△馬援 後漢ノ光武帝ニ仕ヘシ武人。四方ノ伐チテ功アリ。△馬援書云々 馬ノ兄ノ子嚴・敦共ニ讒議ヲ喜ビ、輕快ノ客ニ通ズ。援交趾ニアリテ書ヲ以テ成メテイフ、「寧死不願聞子孫有此行也。」ト。△竟舞理 理ハ治ナ

リ。△深淵與薄冰。詩經小雅小旻ニ「戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄冰。」ト。△增罪戾。求遷秩ヲイフ。○明道先生墓表。△程頤。明道ノ弟、字ハ正叔。兄ト共ニ周敦頤ニ學ビ、哲宗ノ初、崇政殿説書トナリ、後、地方官トナル。伊川先生ト稱セラル。△伊川。伊川（伊河）ノ流域ノ地。今ノ河南嵩縣附近。モト川ノ名。今、ソノ下流ニ同名ノ縣アリ。△潞國太師。文彥博潞國公ニ封セラル。△淑諸人。孟子離婁下ニ「予未得爲孔子徒也。予私淑諸人也。」ト。淑ハ善ナリ。他人ニ學ビテ己ヲ善クスルナリ。△賀賢焉。目明ナラザルサマ。△天不憚遺。哀公十六年左傳ニ「不憚遺一老、傅、屏、余一人以在位。」ト。天ガ暫時明道先生ヲ此世ニ殘スヲナサズ。△帝師。天子ノ師タル太師ノ位ニアル文彥博。

徐行ノサマ、ソロソロト。△更。互ニ。△今年。唐ノ憲宗ノ元和四年。△法華。寺名。△湘江。湘水、洞庭湖ニ入ル。△染溪。柳ノ「愚溪詩序」ニ「澗水之陽有溪焉。東流入於瀟水。或曰冉氏嘗居也。故姓是溪曰冉溪。或曰可以染也。名之以其能。故謂之染溪。」ト。△茅茨。茅ノ生ヒ茂レルサマ。△慨然。山深キサマ。△泯然。窪メルサマ。△縈青繚白。山川ノトリカコム形容。△培塿。小丘。△灑氣。天上ノ清ラカナル氣。○鉛錫潭記。△鉛錫。ヒノシ。△顯委。水源下流。○鉛錫潭西小丘記。△嶽然。高クケハシキ貌。△與目謀。謀ハ交ルコト。目ニカナヒテ快キコト。△澧。澧水、長安近傍ヲ流ル、川ノ名。△鎬。古地名、周ノ武王ノ都。長安ノ西南ニ當ル。△鄠。長安ノ西南ノ地名。△杜。古ノ國名。長安ノ東南ニアタル。○漁翁。△清湘。湘水ノ清キ流。△楚竹。洞庭湖近傍ハ篠竹ノ産地ナリ。△中流。川ノ中央。

○耶馬溪圖卷記。△頼襄。號ハ山陽、字ハ子成、通稱久太郎。江戸ノ漢詩文ノ作家中、最モ知ラレタル人。日本外史・日本政記ノ作ヲ以テ有名。天保三年歿、年五十三。△歲戊寅。文政元年。△彦山。英彦山。筑前ニアリ。△董巨。董源・釋巨然。宋初ノ山水畫家。△倪黃。倪瓚（雲林）、黃公望。元末ノ畫家。△王叔明。王蒙。元末ノ畫家。△舍公。釋大舍。詩畫ニ巧。△山寺。淨真寺ヲ指ス。△橋元吉。橋本元吉、尾道ノ人。△己丑。文政十二年。△依依。思慕ノ貌、名殘ヲ惜ム。○泊天草洋。△天草洋。熊本縣ニアリ。△吳耶越。吳越ハ江蘇・浙江ノ地。春秋時代ノ古國。○雜説。△駢死。凡馬トナラビ死ス。△櫛。馬小屋ノ板敷。○送溫處士赴河陽軍序。△冀北。冀州ノ北。今河北省ノ地。昭公四年ノ左傳ニ「冀之北土。馬之所生。」トアリ。△東都。河南省洛陽。長安ニ對スル稱。△洛。洛水。△石生。石洪。△大夫鳥公。御

史大夫鳥重胤。△以鉄鉞鎮河陽。河陽軍節度使トナル。△居守河南尹。官名。居守ハ留守ノ如シ。鄭餘慶。△介然於懷。氣ニカ、ル。△前所稱。夫南面云々。△後所稱。愈靡於茲云々。△居守相公。居守河南尹鄭餘慶。○送元二使安西。△元二。名不詳。元氏ノ一族中ニアリテ、年齢ノ順ニテ第二ノ者。二ハイハユル排行ノ順ニヨル。△安西。安西都護府ハ龜茲ニアリテ、龜茲・焉耆・于闐・疎勒ノ四鎮ヲ管セリ。△渭城。今ノ陝西咸陽縣ノ東ニアリ。唐都長安ノ人、人ヲ送リテコ、ニ別ルヲ常トス。△柳色新。漢ノ俗、人ヲ送リテ別ル、時、柳枝ヲ贈ル。△陽關。甘肅省敦煌縣ノ西南ニアリ。玉門關ノ南ニアレバカクイフ。塞外ニ出ヅル際、必ズ通ル路ニ當ル。○胡笳歌送顏真卿使赴河隴。△胡笳。胡人ノ吹ク樂器。哀怨ノ調ヲ出ス。舊説ニテハ、蘆葉ヲ捲イテ作ルト。今傳フル所ハ木製ナリ。△顏真卿。字

ハ清臣。草書ニ巧ナリ。開元中、監察御史トシテ河隴ニ使セシコトアリ。德宗ノ時、李希烈ノ叛ヲ諫メニユキテ殺サル。文忠ト諡シ、顔魯公トヨバシ。△河隴 今ノ甘肅省西部ノ地。△愁殺 憂ヘ悲シマシム。殺ハ助辭。△樓蘭 鄯善國ノ古名。今ノ新疆省ロブノール(湖)ノ南ニ位ス。△征戍 遠征ノ健兒即チ出征兵。△蕭關 甘肅省固原縣ノ東南ニアリテ、吐蕃ヲ防ギシ關。△天山 新疆省南部ニ連ル山。白山、雪山ノ一名アリ。△崑崙 新疆、西藏境ノ山脈。△秦山 陝西宜君縣ノ東南ニアリ。△隴山 陝西隴縣ヨリ甘肅清水縣ニ跨ル。

○岳陽樓記 △岳陽樓 湖南省岳陽縣ノ西ニアリテ、洞庭湖ニ臨ム。唐ノ張說、此地ニ守タリシ時ニ築キ、宋ノ滕子京重修セリ。△范仲淹 字ハ希文。江蘇吳縣(蘇州)ノ人。官參知政事ニ進ミ、地方ニ出デテ、潁州ノ知ニ終ル。皇祐四年歿、年六十四。文正ト諡ス。△慶曆 宋ノ仁宗ノ年號(一

○四一八)。△滕子京 名ハ宗諒。范ト同年ノ進士。徑州ニ在任中、公錢ヲ費シタル故ヲ以テ左遷セラル。范、參知政事トシテ斡旋シタリ。△巴陵 岳州、今湖南省岳陽、宋ニ岳陽軍トイフ。△巫峽 四川巫山縣ノ東、湖北巴東縣ノ西。△瀟湘 瀟水ハ北流シテ、零陵(永州)縣ノ西ニ至リテ湘江ニ合ス。合流點ハ水清ク、瀟湘八景ノ勝アリ。△長煙 タナビケルモヤ又ハ霧。

○登岳陽樓 △吳楚東南坼 吳ハ湖ノ東、楚ハ南ニ、コノ湖ニヨツテ分タル、意。△乾坤日夜浮 日月共ニ湖ニ出沒ス。△無一字 戰亂ノ爲ニ音信絶ユルナリ。△關山 陝西省隴縣ノ西ニアリ。△關山北 漠然ト都ノ關中ノ地ヲ指スナラン。△軒

○黃鶴樓 △崔顥 盛唐ノ詩人。官、司勳員外郎ニ終ル。△漢陽 武昌ノ西、長江ヲ隔ツル對岸ニアリ。北、漢水ヲ隔テ、漢口アリ。△鸚鵡洲 漢陽ノ南、一水ヲ隔ツ。

○登金陵鳳凰臺 △鳳凰臺 南京市ノ南ニ當リ、宋ノ元嘉中、吳鳥コ、ニ集ル。ヨツテ築クト。遺址ノミ。△吳宮 吳ノ孫權コトニ都ス。△晉代東晉。△三山 江寧縣ノ西南ニアリ。一名護國山。○獨樂園記 △孟子曰 梁惠王下篇首章中ノ語。△孔子曰 論語述而篇ニ出ヅ。△一簞食一瓢飲 論語雍也篇中ノ語。△鸚鵡云々 莊子逍遙遊篇ニ出ヅ。△熙寧 宋ノ神宗ノ年號(一〇六八―七七)。△洛 河南省洛陽。△何得比君子 得ハ德ナリ。○喜雨亭記 △名其書 逸書(今日ノ書經ニ收メラレザル)嘉禾篇。△名其年 元狩六年、寶鼎ヲ浴水ノ流域ニ得テ、元鼎元年ト改元ス。△名其子 文公十一年、叔孫得臣ハ狄ヲ鹹ニ破リ、長狄僑如ヲ得、ソノ子ニ僑如ト名ヅケシコト、襄公三十年ノ左傳ノ文ニ見ユ。△扶風 陝西省長安ノ西ニアリ。今縣。△余至扶風 嘉祐六年冬。△岐山 扶風ノ西北、岐山縣ノ東北ニ當ル。△抃 手ヲ打ツテ喜ブ。

○方山子傳 △光 州名。今河南省潢川縣。△黃州名。今湖北省黃岡縣。△朱家 漢初魯人。俠士ニシテ、人ノ急ヲ救フコト、己ノ難ノ如シト。△郭解 朱家ニオクレテ出デタル俠士。節ヲ折リテ儉ヲ爲シ、德ヲ以テ怨ニ報イ、厚ク施シテ薄ク望ム。人ヲ救ヒテ、功ニホコラズ。讒ニアヒテ殺サル。二人共ニ漢書游俠傳ニ見ユ。△折節 コ、ニテハ從來ノ行ヲ改ムルヲイフ。△岐亭 湖北省麻城縣附近ノ鎮名。△方屋 帽ノ中央高ケレバイフ。△方山冠 後漢書輿服志ニ見ユ。儒者ノ冠タル進賢冠ニ似、樂師ノ被ルモノ。△陳慥 季常 常ハ字。△壘然 驚クサマ。△岐山 前課參照。○與微之書 △四月十二日 年譜ヲ按ズルニ元和十二年ニ當ル。△胡越 胡ハ北ニアリ、越ハ南ニアリ、故ニ疎遠ナルニ喩フ。△潯陽 今ノ江西省九江縣。△白二十二郎 樂天、排行二十二。△徐州 今江蘇省銅山縣附近。△湓魚 湓水ニ産スル魚。△江酒 九江ヨリ産スル酒。△司馬 軍事ヲ

掌ル官吏。△門内之口 家族ノ人数。△東西二林
東林寺・西林寺。△金鑿殿 翰林院。原來ハ、
院ノ東ニアリシ殿ノ名。

○贈元九 △元九 元稹、九ハ輩行ノ順。△同登
科 同時ニ官吏登用試験ニ及第スルコト。

○金鑿子醉日 △醉 一周年、特ニ小兒生レテ滿
一年ナルヲイフ。△怜 憐ナリ。

○議婚 △姝 美シ、ウルハシ、カホヨシト調ズ。
△紅樓 紅色ニ塗リタル樓、富家ノ喻。△羅襦
薄キ肌著。△不斂手 仕事ヲシツマク。△荆釵
イバラニテ作レル粗末ノ簪。△四座 滿座ノ人々。

△歌兩途 結婚ニ二方面アリ。
○桃夭 △夭夭 桃ノ若木ノ元氣アル形容。△之
子 嫁シユク少女。子ハ美稱。△費 果實ノ大キ
ク立派ナルヲマ。

○新嫁娘 △王建 中唐ノ詩人。大曆ノ進士、官
陝州司馬ニ至ル。△小姑 夫ノ妹。
○戒耳鑿 △袁枚 清朝ノ文人。字ハ子才、簡齋

年、愈宣州ニ家ス。今ノ安徽省宣城縣ナリ。△兩
世 子ノ代ト孫ノ代ト。△形單影隻 形影單隻、
孤立ニシテ頼ル所ナキコト。△年十九 貞元二年
ナリ。△京城 京ハ大ナリ。コ、ハ長安。△董丞
相 名ハ晉。禮部・兵部尙書等ヲ歷任。汴州刺史
トナル。△汴州 今ノ河南省開封縣。△佐戎徐州
武寧節度使張建封、愈ヲ徐州節度推官トナス。
△徐州 今ノ江蘇省銅山縣、前出。△罷去 貞元
十六年、張建封卒ス。愈洛陽ニ返ル。△東 徐州
ヲ指ス。△西 洛陽。△公相 三公宰相。△孟東
野 名ハ郊、當時ノ詩人。愈ノ親友。△諸父 父
ノ兄弟。△耿蘭 十二郎ノ侍女。△汝之子 湘・
滂。△吾之子 昶。△伊・穎 共ニ川ノ名。
○雍露歌 △雍 和名オホニラ。△樂府詩集 一
百卷。宋ノ郭茂倩編。上代ヨリ五代ニ至ル樂府體
ノ詩ヲ輯ム。

○嵩里曲 △嵩里 泰山ノ南ノ山。△鬼伯 死神。
○送東陽馬生序 △東陽 今ノ浙江省金華縣。△

ト號ス。乾隆ノ進士。各所ノ知縣ニ歷任シ、晩ニ
江寧小倉山ニ退隱シ、婦女ノ弟子多シ。小倉山房
又ハ隨園ノ名アリ。詩名高シ。△燕窩 燕ノ巢、
斷崖ニ作ラレ、海綿狀ヲナス。南支ノ料理ノ材料
トシテ貴重視セラレ。△海參 イリコ。ナマコヲ
乾シタルモノ。△缸 カメ。△四兩 兩ハ重量ノ
單位。△隨園食單 一卷。調理ノ方法、食事ニ關
スル訓戒、食料品ニツイテ記シタル袁枚ノ著述。
○祭十二郎文 △十二郎 名ハ老成、愈ノ次兄介
ノ子ニシテ、長兄會ニ子ナケレバ、ソノ養子トナ
ル。十二ハ輩行。△年月日 貞元十九年五月二十
六日。△季父 父ノ末弟。△建中 愈ノ使トナリ
テ行ケル人ノ名。△不省所怙 親ノ世話ヲナサマ
ルコト、一説ニ兩親ノ顔ヲ知ラザルコト。又、一
説ニ父母ノ墓ニ參詣セザルコト。詩經蓼莪篇ノ文
句ニ基キ、父母ヲ怙恃トイフ。△兄歿南方 大曆
十二年、會詔州刺史ニ左遷セラレ、ツイデ歿ス。
△河陽 今河南省孟縣ノ南。△就食江南 建中二

宋濂 元末明初ノ文人。字ハ景濂、號ハ潛溪。古
文ヲ能クス。集ヲ宋學士文集トイフ。翰林學士承
旨知制誥タリシ故ナリ。又、元史ヲ主編ス。△無
從致書以觀 書籍ヲ買ヒテ讀ム能ハザルコト。從
ハ由ナリ。△加冠 二十歳トナル。△德隆望尊
德望高キナリ。△破裂 ヒビアカギレノキル、コ
ト。△媿人 侍女。△容臭 香ヒモノ。ニホヒブ
クロ。△縣官 直ニ天子又ハ朝廷ヲ指スヲ憚リテ
州縣ノ官吏トヨブナリ。△廩餼 祿米。△司業博
士 明史職官志ニ、國子監祭酒一人、司業一人、
其屬ニ博士廳五經博士五人ト。△朝京師 時ニ濂
已ニ退官隱退セリ。
○送友人 △白水 川ノ名。陝西省同名ノ縣附近
ヲ流ル。△孤蓬 友人ノ單身遠行スルヲ蓬ノ風ニ
飛ブニ喩フ。△浮雲 定處ナキ喩。△班馬 班ハ
別ナリ。馬離別ノ聲ヲナスナリ。
○送別 △白雲無盡時 盡クル時ナキ白雲ヲ相手
トスル隱遁生活ノ終身樂ムベシトナリ。

○送石昌言爲北使引 △石昌言 名ハ揚休、昌言ハ字。刑部員外郎、知制誥ニ累進ス。△北使 遼ヘノ使節。△引 文體ノ名。ホ、序ト同ジ。△蘇洵 字ハ明允、號ハ老泉。宋ノ眉山ノ人。校書郎トナル。東坡ノ父、老蘇トイハル。古文ニ巧。△兩制 宋代ニハ翰林學士、知制誥詔勅ヲ草ス。△彭任 慶曆ノ初、富弼ニ從ヒテ遼ニ使セン人。△富公、名ハ弼、字ハ彥國。知制誥タリ。時ニ契丹地ノ割讓ヲ求ム。弼使シテ利害ヲ説ク。後、樞密使トナリ、鄭國公・韓國公ニ封ゼラル。△奉春君 劉敬、漢ノ高祖ノ臣。匈奴ノ冒頓單于 壯士肥馬ヲ匿シ、ヨツテ他人ハ匈奴ヲ侮リ伐ツベシトナセシガ、敬ハ反對シテ罪セラレタリ。△平城之役 高祖韓信ヲ伐チテ平城ニ至リシ時、匈奴之ヲ包圍シ、遂ニ高祖白登城ニ圍マレタリ。平城、今ノ山西省大同縣。△今之匈奴 契丹ヲ指ス。實力ナキヲイフナリ。

○蘇臺覽古 △吳王宮 蘇臺。△宮裏人 美人西施ヲイフ。

○烏衣巷 △烏衣巷 南京ノ街名、△劉禹錫 中唐ノ詩人。字ハ夢得、太子賓客ニ終ル。白居易ト交際アリ。△朱雀橋 烏衣巷口ニアリシ橋。今聚寶門外鎮淮橋、ソノ故址トイフ。△王謝 晉ノ謝安・王導ノ故宅ノアリシ處ナレバイフ。

○行宮 △寥落 寂寞ト同ジ。

○臺城 △臺城 宮城ノコト。晉宋ノ間、天子ノ居所ヲ臺トイヒシ爲ナリ。晉ノ臺城 南京市北玄武湖畔ニ位シ、南朝皆コ、ニヨル。△韋莊 五代ノ詩人。蜀ニ事ヘテ吏部尙書トナル。字ハ端己、集ハ浣花集。

漢文

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Dec 1, 1943)

昭和二十二年十二月十一日 印刷
昭和二十二年十二月十五日 發行

著作權所有
著作權發行者

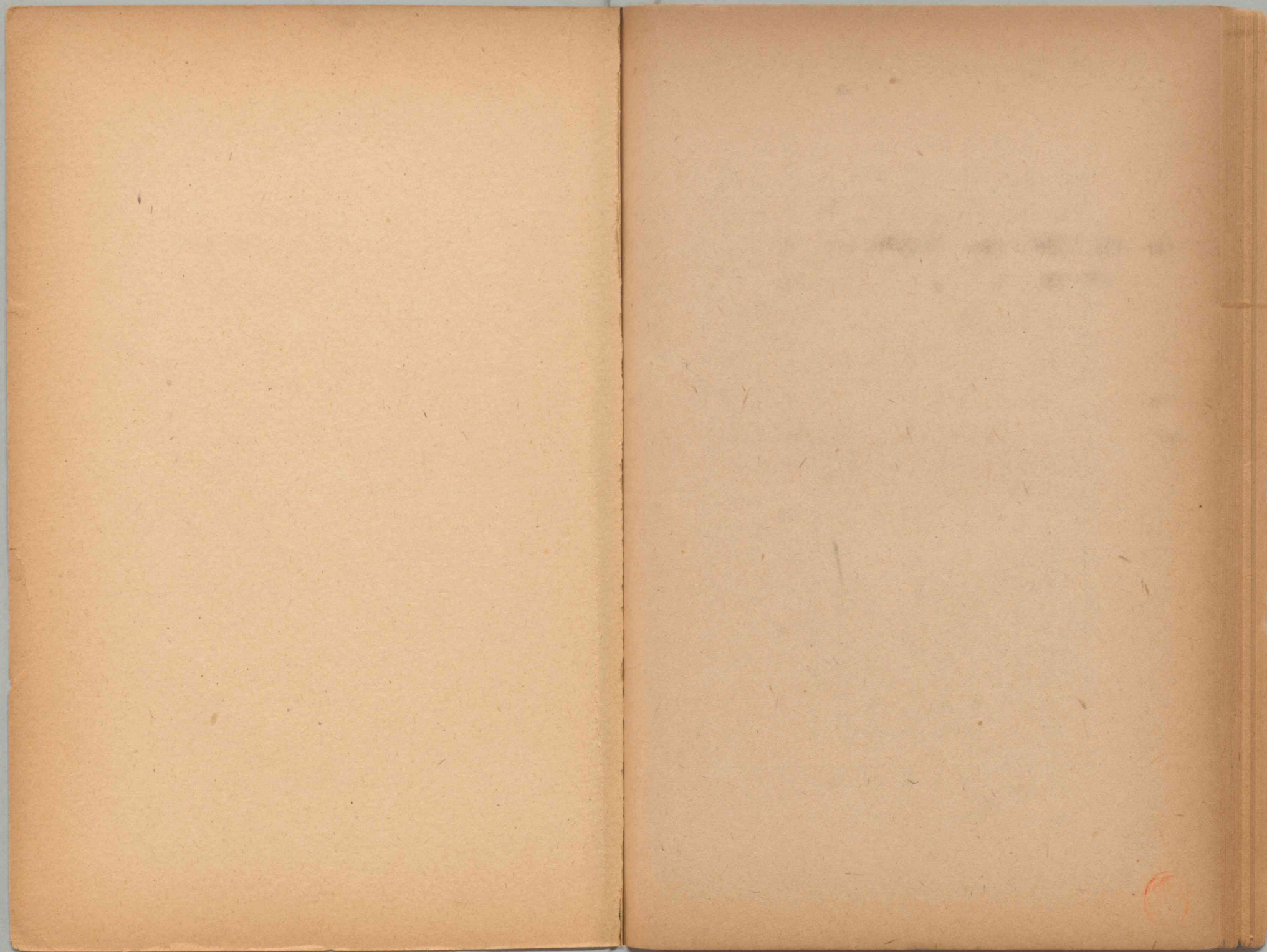
代表者 阿部眞之助

印刷者

東京都千代田区神田岩本町三番地
三協印刷株式會社
代表者 小泉經一

發行所

東京都千代田区神田岩本町三番地
中等學校教科書株式會社



広島市 油屋町三
岡野芳郎

広島大学図書
2000301646


¥20.60